

2024年度 第1回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 2024年9月30日(月) 13時30分から14時30分
- 開催場所 三次市防災センター1階会議室
- 出席者委員 植田千佳穂・石田睦子・池上裕章・添田龍彦・前田茂・中宗久之・中菊圭子・藤井皇治郎・竹本勇夫・東山裕徳・小木戸康志(敬称略)
- 説明員 株式会社三次ケーブルビジョン
林代表取締役社長・坪井取締役・猶崎制作グループリーダー
田丸企画制作グループリーダー・加藤制作グループ員
伊達制作グループ員

- 1 開 会
事務局 出席者が揃ったため、事務局が開会を宣言する。
- 2 委嘱状交付 出席審議会委員へ2024年9月から2年任期の委嘱状を交付
- 3 社長挨拶 代表取締役社長が開会にあたっての挨拶を行った。
お忙しい中ありがとうございます。今年は被爆から79年になり、体験者の人数も少なくなり、若い人たちに引き継いでいくか大きな課題です。
意見を聞きながらどう引き継ぐかを考えていきたいと思ひます。
忌憚のない意見をよろしくお願ひします。
- 4 会長・副会長の
選出 事務局へ一任
植田委員と石田委員を会長・副会長に選出
- 5 会長挨拶 三次ケーブルビジョンにおきましては報道機関として様々な活動をしてもらっているが、こうした番組づくりは必要なことです。番組が豊になるために、みなさんから奇譚のない意見をいただき、これからの番組づくりに活かしてもらいたいと思ひます。

- 4 社側自己紹介 役員・社員が自己紹介を行った。
- 5 事務局 本日の出席状況について報告。本日は放送番組審議会委員12名中12名の出席を頂いており、放送番組審議会規則第6条2項により有効に成立していることを報告する。
- 6 審 議 審議に入る。皆様のご協力を頂きながら円滑な進行に努めてまいりたいと述べ、審議内容となる「あっちこっち三次 戦争と平和特集」について事務局からの説明を求める。
- 会長(司会)
- 番組担当者 制作グループ員の番組ディレクター8月15日に放送した「あっちこっち三次 戦争と平和特集」について、配布資料に基づき企画意図や番組概要、演出などの説明を行う(事前に委員へDVDを送付)
- 会長(司会) 視聴いただいた番組の内容について、忌憚のない意見を願います。
- 委 員 いい番組だった。体験者が少ない中、後世に残すだけでなくいろいろな工夫が見られた。
吉舎町の回で広島のお姉さんの話がその後どうなったのか気になった。
- 委 員 ケーブルテレビが始まって20年。今回、地域の記録を記録していくことが大切だと痛感。尺は短いが今後、全体を流してもらいたい。
- 委 員 戦争体験者の話は貴重な映像だと感じた。細かい話もあり勉強になった。吉舎での子どもへのインタビューで同じ内容の答えがあった。この時期に三次から何人出征されたのか数字などあれば良かった。
- 委 員 3地区とも貴重な体験談がまとめられ今後の資料的な価値が生まれるのでは。
神杉では2人の発言が戦争未体験者へのメッセージとなり、また、河内での小学校の取り組みが将来へ向けて活かさせるのでは。
- 委 員 被害者にばかり目が当たるが、どうして戦争へ向かったのかを絡めた体験談があると戦争の全体像が見えてくるかも。

- 委員 3地区で慰霊祭があるのを始めて知った。体験談に説得力があり、子どもたちに伝わり、身近に感じてくれた。意見の中に、戦争反対の気持ちが強くなっていると感じた。子どもたちに継承できている。
- 委員 父親が復員した時のことを思い出した。
戦争反対一辺倒だが、戦争を始めたきっかけを知ることなども重要なことだと思う。
- 委員 スタジオの背景がいつもと同じだったので、今回のテーマに合わせた背景にするなど工夫があれば良かった。
- 委員 市内に体験談を話す人がいるとは知らなかった。いい番組を作られたと思った。今後も取材を続け、これからの財産にしてほしい。
- 委員 体験者が少なくなり、貴重な話を子どもたちも真剣に聞いていた。遺族の方も少なくなり、自治会に協力して慰霊祭をしている。今後も慰霊祭を続けて欲しい。
- 副会長 実体験が聞けて良かった。広島だけでなく、三次にも体験談を話す方があるので、今回のように残す方法があることはいいこと。もっと語ってほしいと思った。
- 会長 30分の中で、3つの体験談は素晴らしい。話を聞いた子どもたちが何か感じ取ることがあったのではと感じられた。戦後79年になるが、まだ語ってくれる方がいるのはうれしい。
- 社側 (委員からの意見に対して)
河内地区の菊について、河内の慰霊碑と広島式の式典に使われると聞いている。
三次から何人出征したのかなど客観的な数字も調べていきたい。
テーマにあったスタジオセットなどこだわって作っていきたい。

記録しての大切さのほか、戦争責任など一歩踏み込む番組づくりもやっていきたい。

社 長 子どもたちなりの戦争についての考えを持つことができた。
なぜ戦争起きるのか、戦争を避けるには、戦争をどう終結させるのか
体験談は貴重なので整理し残すことは必要だと思う。

委 員 今被爆体験者の方が減ってきている中、体験者の方にお話を聞き、
伝えていく事は、とても大切。
記録としてずっと残していってほしい。

委 員 神杉の方が、「教育は大切。間違った誤った教育はしてはいけない」
というところが印象に残り、心にとどめていかないといけないと思
った。

委 員 こういった番組を記録として大切に残しておいた方が良い。
子ども達の夏休みの宿題として、被爆体験者に話をきくというのも
良いことだと思う。

委 員 広島のお盆の放送にふさわしい内容だった
こういった放送を通して、子ども達や若い人たちに
戦争について伝えていかないといけない。

会長（司会） 皆様の意見が出揃ったようですので、事務局へお返します。

7 閉 会 事務局より審議会の議事録を HP に掲載し、翌日のニュース番組「情
報ストリートあっちこっち三次」で放送することを伝え、次回の番組
審議会は来年 2 月開催予定の旨を案内し閉会した。

以上